



TITLE:

静脩 Vol. 17 No. 1 (1980.4) [全文]

AUTHOR(S):

---

CITATION:

静脩 Vol. 17 No. 1 (1980.4) [全文]. 静脩 1980, 17(1)

ISSUE DATE:

1980-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65969>

RIGHT:



# 静脩

1980年4月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 17, No. 1

## 新入生諸君へ！

### ○入学おめでとう

共通一次2年目の今年の4月、難関を突破して京大に入学された諸君に、附属図書館（以下本館という）より心からのお祝いのあいさつをお送りする。

昔は、進学しようとする大学を選ぶひとつの要素として、その大学の図書館と蔵書を考慮にいったという話が伝えられている。「京大に入ったら、あそこの江戸期の浮世草紙や、馬琴、京伝などを手にとって読んでやろうと期待した」という意味のことを菊池寛（大正5年本学英文学卒）は自伝に書いている。

講義は勿論、ゼミ、実験のスケジュール過密化によって、諸君には、そのようなのんびりした話しは通用しなくなったかもしれない。しかし、折角京大の門をくぐられたのであるから、明治30年（1897）の開学以来、80年にわたって蓄積され、育てられてきた本館を始めとする全学の図書を最大限に利用してほしいものである。図書館員や、本について多少の知識をもつ人は、京大の蔵書が、質量ともにわが国図書館界屈指のものであることを知っている。現在、京大全域で所蔵されている図書数は、約380万冊となっているが、その質の方を端的に表現することは実にむずかしい。これを代表するものとして、本館が所蔵する貴重書の中には、重要文化財に指定されているものが、37種含まれているということを記すにとど

めておく。

### ○図書の利用について

もちろん、上記の多数の図書が本館だけに集中して所蔵されているのではなく、各学部、研究所、さらには南紀白浜の理学部附属瀬戸臨海実験所、北海道標茶<sup>シベチヤ</sup>の農学部附属演習林、南国鹿児島<sup>シベチヤ</sup>の防災研究所附属桜島火山観測所などの図書まで含まれているのであって、その中で諸君が最も気兼ねなく利用できるのは、本館の約50万冊と、教養部図書室の約35万冊であるが、さらにその中の「開架図書」と呼ばれ、直接本棚の前までいって自由に手にとることのできるものが、両図書館にそれぞれ3万冊ずつ置かれている。中味は教養書、一般学習図書、指定図書と呼ばれているもので、大部分が新刊書であり、各専門分野の教官により選定されたものである。現在学生諸君の利用の大部分はここに集中しているといえよう。なお、館内の閲覧だけでなく、家や下宿へ借りて帰って読みたい諸君は、何十万冊という書庫内の図書を簡単な手続きで借出せるし、「開架図書」も1週間1冊ずつなら借り出せることをつけ加えておく。

上記両図書館以外の各学部・研究所にも立派な図書室があり、大部分は簡単な手続きで利用することができる。本館を含め学内すべての図書（館）室の利用については本館の「図書館利用案内」に要領よく記事が載せてあるので是非一読していた

だきたい。なお本館の2階の参考室カウンターには常時職員を配置し、図書館（室）及び図書の利用に関するあらゆる質問を待っているし、1階にある全学総合目録（カード）により必要とする図書が学内のどの図書（館）室にあるかが一目でわかるようになっている。かくしてできるだけ多くの図書をうまく利用する技術を一日も早く自分のものにしてほしいと願うものである。諸君の京大生活の充実度は、本学の図書施設を如何にうまく利用するかによって相当に左右されるものと確信しているからである。

#### ○附属図書館の施設について

さて、本館の建物は、御覧の通り大変古ぼけており、他大学に比べて遜色がない、とはお世辞にもいえないだろう。何しろこの建物は、太平洋戦争の始まった昭和16年に起工され、戦争中は物資不足のため工事中止、戦後の昭和23年にやっと完成したものである。以後30年、激増する図書、雑誌などの情報資料を蒐集し、学生や教官に対して効率よく提供するという現代的図書館の任務を十分に果たすことは、年毎に困難の度を加えているというのが実情である。しかし、そのような状況の中でも、本館は諸君の学習室としての役割りを

も果たすべく、冷房装置の設置、「開架図書」の充実拡大にも力をいれてきた。また文献複写室、雑誌室、新聞閲覧室を設け、さらに参考室には、内外の書誌、目録、索引、辞書、事典、年鑑、ハンドブック類を網羅して諸君の自由な閲覧に供している。

なお、2階大閲覧室の「開架図書」の中に「指定書」と呼ばれる図書があることは、前にも述べたとおりであるが、これは各学部の教官により、是非読んで欲しいという意味で指定されたものである。一方、諸君が「どうしてもこの本を備えて欲しい」と希望するものがあれば、所定の用紙に記入して提案することができる。朝9時から夜9時まで、本館を大いに利用していただきたい。

#### ○おわりに

現在、本館をもっと利用し易く、現代の情報化時代にマッチしたものに建てかえようという動きが推められているが、諸君が3・4年生になり、或は大学院生になって、各専攻学部の図書室を利用することになっても、本館をいつでも利用できることを附言しておきたい。

## 西 欧 の 大 学 図 書 館 建 築 印 象 記

京都大学附属図書館 整理課長 倉 橋 英 逸

一昨年暮、西欧では英国と西ドイツの大学図書館を視察したので、その大学図書館建築について素人の印象を簡単に述べたい。

英国のロンドン郊外にあるオックスフォード大学は、大学全体が保存建物に指定されており、外観の変更は許されていない。この大学の中央図書館であるボードリアン図書館は、戦後、蔵書の増大によって増築の必要を迫られたが、周囲に建物があり、隣接して新館を建てることができなかった。そこで、建物をつつ挟んで新館を建て、これと旧館とを地下にベルト・コンベアで結び、旧館を閲覧室、新館を書庫として利用している。

一般に西欧人は息が長く、グリムの独語辞典や

フランス国立図書館の蔵書目録が19世紀からABC順に継続して刊行されているのと同様に建物の耐用年数に対する感覚も我々日本人と較べて比較にならない程長いように思われる。西欧の都市の街を歩いていると、公共的な建物だけではなく、民間の建物に於いても、古い建物を改装していつまでも大事に使っているのが見受けられるが、オックスフォード大学のボードリアン図書館も1602年に建てられて以来、400年近くも現役で働いていることになり、驚くほかない。

新しい大学図書館建築としては、スコットランドのエディンバラ大学の中央図書館が1967年に建てられ、地上7階、地下1階、総面積約3万平方

米の規模を誇り、完全なモジュラー・システムによって設計している。

モジュラー・システムは米国の図書館学者メトカフが完成させた図書館建築設計思想であり、簡単に言えば、図書館はたえず変化・成長するものであり、それに合わせて建物自体も成長できるようにし、内部の機能の変化に合わせて対応できるように融通性をもたせようとする考え方である。従来の西欧の建物が主に壁で建物の重量を支えるように設計されていたために、壁を取り去って増築することができず、また、内部の壁を移動して模様替えをすることも困難であったので、柱間隔を一定にし、柱だけで建物を支え、床は、閲覧室にも書庫にも転用できるように予め耐荷重性を高くしておこうとするものである。

エディンバラ大学の中央図書館は余りにも大きいために玄関部分だけは吹き抜きにし、全体との調和を保たせているが、このほかに吹き抜きは全くない。各階には同じ位置に階段と便所を一つにしたコアを三つ、等間隔にやや南側寄りの一直線上に配置した単純な設計である。書架や閲覧机がない状態では、工場のように殺風景ではないかと想像された。事実、この単調さを救うために、書架や閲覧机の配置に変化をもたせ、それでも足りず、あちこちにカーテンや衝立を置き、それらに色彩の工夫をこらして、単調さを減らしていた。

将来の増築を見込んで建てられた大学図書館としては、同じくスコットランドのグラスゴー大学の中央図書館がある。この図書館は1968年に建てられ、地上9階、地下3階、総面積約1万6千平方メートルの規模であるが、建物の裏側は鉄筋が露出し壁面の部分はパネル状の簡易壁がはめられ、容易に取りはずしすることができるようになっていた。

英国の中央部にあるノッティンガム大学の中央図書館は、1972年に建てられ、地上3階、地下1階、総面積約1万2千平方メートルの規模である。コア部分は各階同じ位置に二つ、中心よりやや片側寄りに一直線に配置されているので、正面玄関を入って行くと、右手に階段があるようになっていく。コアを建物の中心に置くと、空間の利用が単調になるからであると思われる。この図書館も完

全なモジュラー・システムによって設計されており、建物の中心に立つと、四方の外の景色が見られ、非常に明るい感じがした。吹き抜きは全く用いていないが、舟底天井を数多く並べたような天井が、照明効果もあって、心理的に高く感じさせるような設計であった。吹き抜きを無くすることによって融通性を高め、同時に天井の工夫によって、圧迫感もなくすという両方の効果をねらったものと思われる。利用部門と事務部門との仕切りも簡単なもので、見透しがきき、館長室も取りはずし可能な囲いがしてあるだけで、いかに徹底したモジュラー・システムであるかが理解される。この建物を見ていると、設計において、まず、全体の必要面積を算定し、階層およびコアの位置を決め、これによって建物を造り、最後に各部屋の割り振りをしたのではないかとさえ感じられた。

メトカフのもう一つの考え方は人工照明の重視である。これは従来、欧州の建物は太陽光線を多く取り入れるために天井を高くし、建物の巾を狭くしていたが、建物の巾を狭くすると、模様替等の融通性がなくなるので、建物の間口と奥行きとの長さの差を少なくし、それに伴う採光不足は人工光線に頼るという考えである。この考え方を徹底すれば、天井が低い程照明効果が良いということになる。ノッティンガム大学の中央図書館もこの考え方に従っており、更に英国では、大学図書館建築の冷暖房効率を高めるために外壁面の窓の総面積の大きさを制限しているということで、2階と3階の窓は小さくしてあるので、その開架閲覧室はほとんど人工光線に頼っている。

英国西南部にあるブリストル大学の中央図書館は1975年に建てられ、地上3階、地下1階でノッティンガム大学の中央図書館と同じ程度の規模であるが、英国の経済状態を反映しているということで、天井も低く、2階及び3階の窓はノッティンガム大学図書館のそれよりも更に小さくなり、冷房装置もなかった。夏はさぞ暑いだろうと想像したが、夜間、送風機を回し、建物を冷やすとのことであった。英国の夏は日本ほど蒸し暑くないのであろうか。この図書館も“メトカフの理論通りに造った。”とのことで、完全なモジュラー・

システムによって設計されていた。

日本に於いても、モジュラー・システムの理論が紹介されて久しく、続々として大学図書館が建てられているが、英国のように徹底的なモジュラー・システムによって設計された図書館はほとんどないように見受けられる。その理由は、モジュラー・システムでは建物の構造が単調になり、コストが高くなるからであり、消防法等による規制が厳しいことによるものと思われる。コスト高については、当初閲覧室に予定する場所でも、将来書架を置くことを想定して床の強度を強くしなければならず、配線・配管も将来の変化のために余計な投資をしなければならぬことに原因する。しかし、京都大学附属図書館は建設以来33年しか経っていないが、従来の閲覧室の床強度が弱いために開架図書や参考図書を十分に置くことができず利用者に大変ご迷惑をかけていることから考えても、大学図書館の将来の機能の変化を十分に考慮することは非常に大切なことであると思われる。

西ドイツでは、伝統のあるフランクフルト大学と戦後に新設されたボッフム大学及びビーレフェルト大学を訪れた。

フランクフルト大学の中央図書館は公共図書館をも兼ねており、第二次大戦直後に建てられたので特に建物としての特色はないが、伝統ある大学として、数多くある部局図書室との連絡・調整が今後の大きな課題であるとのことであった。

デュッセルドルフの東部にあるボックム大学は、郊外電車の駅から真直に行くのと、大学のメイン・ストリートに入り、それが大学の中央を貫いている。筑波大学と同じように地表は車道と駐車場になっており、歩行は原則として陸橋によって行われているので、中央図書館と講堂はこの通路の真上に向い合って配置されている。このように図書館が大学の中央に位置付けられていることにこの大学の図書館に対する考え方が表われているような気がした。この図書館は1975年に建てられ、地上6階、地下1階の壮大な建物である。建物の中央にらせん状の階段が配置されており、建物の周囲の窓側を閲覧室にし、階段と閲覧室に挟まれた部分を開架書庫とするのが基本的な設計で

ある。この書庫2層分が閲覧室の天井の高さになっており、利用者は書架から自由に本を手にとり閲覧できるようになっている。このような閲覧室が各主題毎にあり、各主題毎に図書館員を配置しているので、人手も多く必要であり、天井が高く、窓も広いので、冷暖房効率も悪いと思われ、自然光線を人工光線よりも優先させて採光していることは、英国の場合と全く逆であり、この違いが何に起因するのか興味ある問題である。

ボッフム大学の近くにあるビーレフェルト大学は1966年に創立された大学であるが、この大学の特徴は大学全体が一つの建物の中に入っていることである。外から見ると巨大な工場のような建物の中央をメイン・ストリートが貫き、1階は管理・厚生部門の設備が置かれ、このメイン・ストリートは2階まで吹き抜きになって、その両側の2階全体が図書館となっている。従って、図書館はメイン・ストリートを挟んで二本の帯状に長く延びており、端から端まで行くのに自転車が必要であると言われる位である。この図書館は各専門分野毎の図書室に区切られ、各々に図書館員を配して、貸出や参考業務を行っている。3階以上は研究棟となっており、研究者は各々の専門分野に該当する図書室に真直に行くことができるようになっており、非常にユニークな図書館となっている。この図書館も大学の中心に置かれ、天井が高く、窓も大きく、自然光線の採光に十分な配慮が加えられていた。将来の成長については、余裕の空間がふんだんにあり、当分は手狭になることはないと思われた。

英国と西ドイツの大学図書館を訪れ、今さらながら「所変れば品変る」の感を強くしたが、国状が異なるのだから当然のことかも知れない。現在、京都大学附属図書館としても新館の建設に向けて努力しているが、やはり日本の風土、大学の組織、部局図書館との関係、教育・研究の方法等大学の実状に合った大学図書館を考えてゆくのが我々の使命であろう。

## 昭和54年度図書資料（大型コレクション）について

昨年度も昭和53年度に引き続き、文部省より上記予算の配分を受け、下記資料を購入しましたので、ご利用いただきますようご案内します。

French National Assemblée. Moniteur Universel. Years 1814-1868 With Index Years 1815-1822, 1823-1833. 134vols.

（フランス国会議事録）

一昨年同じく大型コレクションとして、フランスに於ける 1789年の 制憲議会から ナポレオン一世帝政期 までの 立法院の 各議会の 公式議事録の edition original を収集した議事録の 332 巻（静脩 Vol.16, No.1 に掲載）を購入したが、本資料はこれに続くものである。

収録範囲は、フランス大革命後、ナポレオン一世の退位を受けたルイ十八世の即位（1814）後の王制復古期、七月革命、二月・三月革命を経て、1848年以降のルイ・ナポレオンによる第二共和制の時期、ナポレオン三世の即位（1852）による第二帝政期までの期間である。〔国際法政文献資料

センター蔵〕

The National Library's Collection of Rare Chinese Classics. Microfilm-Positive. 1493 titles. （台湾国立中央図書館善本漢籍）

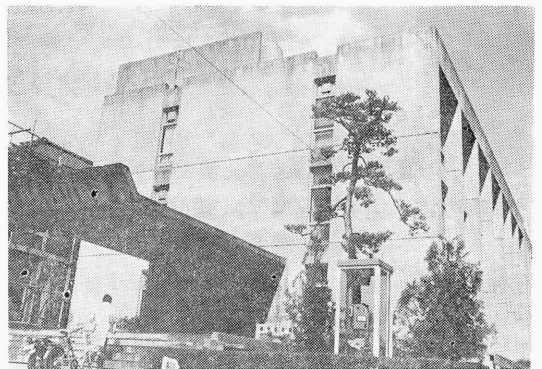
昭和53年度の大型コレクションとして、上記資料の一部（静脩 Vol.16, No.1 に掲載）のマイクロ・フィルムを購入したが、本資料はそれに引き続くものである。

台湾国立中央図書館の善本漢籍は、漢籍の集書として世界最大の規模を有し、従来は閲覧も困難であったが、同館がこの集書をマイクロ・フィルムにしたのを機に同館の好意により、それを複製し、本学に受け入れたものである。本資料集の大部分は、もと清朝の宮廷図書館に秘蔵されていたもので、宋・金・元代の古版本を中心に明・清時代の刊本・写本を含み、その内容も中国学の全領域にわたるものである。〔東洋学文献センター蔵〕

## 医 学 図 書 館

医学、生物学研究のための図書館として、そして広く全国の医学研究者にもサービスをする図書館として、多くの期待のもとに昭和40年10月開館した。

一階には洋雑誌約650、和雑誌500余タイトルおよび二次資料を配架した雑誌閲覧室があり、二階の図書閲覧室には約1万冊の単行図書や辞書類を配架し、合計91の閲覧席をもっている。二階の利用は大部分が学生であり、一階は研究者が主体と言うことも、その利用のピーク時が診療時間と大きく関わっているのも医学図書館の特質であろう。閲覧掛では7名の掛員が交替でカウンター業務に当たっているが、情報化時代の今日、多くのデータを手にした研究者に対して文献所在調査や他大学への複写申込手続等、利用ピーク時には掛



員総出で応接に当らなければならない状態もしばしばである。その他、利用者の少ない時間には利用済図書の納庫、書庫整備、年間約2000冊に上る雑誌製本発注の準備、また医学史研究のブームにのって富士川文庫の利用が頻に増加している 昨

今、その利用者の応接もこの掛の業務であり、閲覧掛では席のぬくもる時がない。

一方、整理掛には9名の掛員がおり、受入では医学図書館は勿論、基礎、臨床の各教室で購入した図書について受入、登録の業務をおこない、目録担当者はそれ等の図書の目録を作成している。教室では早急に図書を必要とする場合が多く、掛員は敏速な手続と、そして目録カード各2枚を配布して教室での利用にも不便のないよう心掛けています。また雑誌担当者は教室分も含め医学部内で購入の前金払いの外国雑誌に関する業務を受持ち、医学図書館購入等の和・洋雑誌の業務も加えて欠号に常に気をつけ業者との折衝もこの掛の大切な仕事である。相互利用の掛では100にも上る日本医学図書館協会加盟館との間の相互利用ができると言う便もあり、53年度1年間の利用は学外からの申込受付件数は、国立84大学、公、私立50大学、その他12機関、合計3173件、学外への依頼数は、国立29大学、公、私立19大学、その他3機関に対し合計2251件にも上っている。申込1件についての複写枚数が平均9枚(18頁)というのも社会科学系論文と違うところであろう。相互利用に関する業務は文献の所在調査、教室、他学部所蔵の借用等、医学図書館にとって一番神経を使う仕事である。

総務では館員の出勤簿を管理し、図書、雑誌、

製本、消耗品等各掛から提出される伝票の整理、また利用の多い文房具類の在庫に気をつけているのも仕事の一つである。その他医学図書館会計帳簿の記入、運営費について予算、決算書等作成するのも総務担当者の大きな業務であり、複写機2台を横にすえ、金庫を前にして複写申込者の応接、複写後の現金出納や領収書発行等決して席を空にできないのも大変な仕事である。

その他、日本医学図書館協会の加盟館として、また評議館として役員会への出席や近畿地区例会への出席、そして現在は近畿地区担当の医学雑誌総合目録(国内篇第6版)出版のため出版委員会の一員として、ある時は館を上げて準備作業に当たったこともあった。完成の日も近く出版委員の他大学の方々と力をあわせて頑張っている。

最後に、医学という学問が視聴覚を必要とする分野であり、医学図書館もテープを持ち乍らそれを利用できる設備が皆無に等しかったが、ようやくカセットテープ、オープンリール共に利用できる設備を設けることができた。また複写機もA3サイズまで複写できる機種にかえることもできた。我々の図書館は16名の職員の内8名が定員外という実に悪い状況ではあるが、皆で力をあわせ充実した図書館にしたいと願い乍ら業務にはげんでいる。

## 附属図書館に学術情報掛を新設

このたび附属図書館に学術情報掛が置かれることになり、当掛の事務は、京都大学分課規程第32条を改正(昭和55年4月8日達示第16号)し、閲覧課がつかさどることとし、その分掌事務は、京都大学附属図書館事務分掌規程を改正し、下記のとおり定め、昭和55年4月1日付をもって発足した。

なお、当掛は、附属図書館一階雑誌室に事務室を置いた。学内電話は2635

記

京都大学附属図書館事務分掌規程一部改正

第8条 閲覧課の事務を分掌させるため、次の4掛を置く。

閲覧貸付掛、参考掛、学術情報掛、書庫掛  
第11条 学術情報掛においては、次の事務をつかさどる。

- 一 雑誌等学術情報資料の受入れ及び整理に関すること。
- 二 雑誌等学術情報資料の利用に関すること。
- 三 図書館事務に係る電子計算機の利用に関すること。



# 昭和53年度蔵書統計

(昭和54年3月末)

部局別	種別	増加数			累計		
		和書冊	洋書冊	合計冊	和書冊	洋書冊	合計冊
図書館	書	6,835	3,920	10,755	357,101	146,053	503,154
文学部	学	4,410	5,141	9,551	364,493	217,291	581,784
教育学部	学	2,252	1,493	3,745	35,529	32,383	67,912
法学部	学	3,531	4,029	7,560	175,290	232,982	408,272
経済学部	学	2,945	2,130	5,075	147,110	155,374	302,484
理学部	学	603	3,082	3,685	33,746	164,076	197,822
医学部	学	974	1,240	2,214	31,192	79,040	110,232
病院	院	21	6	27	8,416	21,190	29,606
薬学部	学	124	447	571	7,448	14,117	21,565
工学部	学	2,952	6,296	9,248	103,655	187,448	291,103
農学部	学	2,407	1,910	4,317	137,557	123,330	260,887
農場	場	0	0	0	1,013	103	1,116
演習林	林	248	59	307	6,403	2,524	8,927
教養部	部	8,841	7,520	16,361	195,900	152,873	348,773
化学研究所	所	157	332	489	6,627	22,534	29,161
人文科学研究所	所	8,177	1,688	9,865	301,936	37,502	339,438
結核胸部疾患研究所	所	6	14	20	1,675	2,202	3,877
原子エネルギー研究所	所	172	309	481	3,368	7,053	10,421
木材研究所	所	79	172	251	4,042	3,871	7,913
食糧科学研究所	所	145	382	527	3,047	6,038	9,085
防災研究所	所	351	680	1,031	6,055	11,171	17,226
ウイルス研究所	所	2	71	73	272	3,632	3,904
経済研究所	所	1,485	1,287	2,772	22,195	14,237	36,432
基礎物理学研究所	所	158	941	1,099	2,482	19,953	22,435
数理解析研究所	所	263	1,952	2,215	3,468	43,299	46,767
原子炉実験所	所	719	1,423	2,142	10,566	17,327	27,893
霊長類研究所	所	93	354	447	1,796	3,769	5,565
東南アジア研究センター	センター	770	2,113	2,883	5,125	15,006	20,131
大型計算機センター	センター	55	201	256	347	2,326	2,673
ヘリオトロン							
核融合研究センター	センター	38	44	82	41	181	222
医療技術短期大学部	部	749	239	988	5,917	451	6,368
放射線生物研究センター	センター	49	369	418	59	416	475
情報処理教育センター	センター	4	4	8	4	4	8
本部	部	10	4	14	4,992	545	5,537
合計		49,625	49,852	99,477	1,988,867	1,740,301	3,729,168

○本部:庶務・経理・施設・学生各部および保健診療所・保健管理センターを含む

## 附属図書館の閲覧時間の延長

附属図書館の閲覧時間は、昭和55年4月16日付  
総長認可で京都大学附属図書館規程施行細則第20  
条を改正し、昭和55年4月1日から下記のとおり  
改められました。

記

平日 午前9時から午後9時まで

土曜日

1月6日から1月10日まで  
7月21日から7月31日まで  
8月16日から9月10日まで

午前9時から  
午後5時まで



# 昭和年54度蔵書統計

(昭和55年3月末)

部局別	種別	増加数			累計		
		和書冊	洋書冊	合計冊	和書冊	洋書冊	合計冊
図	書	7,457	2,299	9,756	364,458	146,624	511,082
文	学	5,943	5,362	11,305	370,436	222,653	593,089
教	育	2,949	1,516	4,465	38,478	33,899	72,377
法	学	3,720	4,376	8,096	179,010	239,070	418,080
経	済	3,511	2,218	5,729	150,621	157,592	308,213
理	学	570	3,129	3,699	34,316	167,221	201,537
医	学	1,390	2,088	3,478	32,582	81,128	113,710
病		151	120	271	8,567	21,310	29,877
薬	学	54	372	426	7,502	14,489	21,991
工	学	3,241	6,640	9,881	106,884	194,021	300,905
農	学	3,490	2,301	5,791	141,047	125,330	266,377
農		1	0	1	1,014	103	1,117
演	習	279	71	350	6,682	2,595	9,277
教	養	8,675	7,928	16,603	204,575	160,801	365,376
化	学	140	1,212	1,352	6,767	23,746	30,513
人	文	5,988	3,044	9,032	308,024	40,546	348,570
結	核	14	200	214	1,689	2,402	4,091
原	子	111	450	561	3,479	7,503	10,982
木	材	115	128	243	4,157	3,999	8,156
食	糧	65	372	437	3,112	6,410	9,522
防	災	218	621	839	6,273	11,792	18,065
ウ	イ	8	1,162	1,170	280	4,794	5,074
経	済	1,550	1,364	2,914	23,745	15,601	39,346
基	礎	78	966	1,044	2,560	20,919	23,479
数	理	302	2,169	2,471	3,770	45,468	49,238
原	子	496	1,868	2,364	11,062	19,195	30,257
霊	長	146	347	493	1,942	4,116	6,058
東	南	851	1,600	2,451	5,976	16,606	22,582
大	型	26	194	220	373	2,520	2,893
ヘ	リ	146	151	297	187	332	519
医	療	1,186	256	1,442	7,103	707	7,810
放	射	25	176	201	84	592	676
情	報	1	1	2	5	5	10
本		13	10	23	5,005	555	5,560
合	計	52,910	54,711	107,621	2,041,765	1,794,644	3,836,409

○本部：庶務・経理・施設・学生各部および保健診療所・保健管理センターを含む

京都大学附属図書館報「静脩」 Vol. 17, No. 1 (通号67号) 1980年4月30日発行・編集: 静脩編集委員会 (責任者 附属図書館事務部長) 発行: 京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電大代751—2111(内線)2611~2641